



HEIMAT 第三回定期演奏会

KYOTO UNIV.

ONGAKU KENKYUKAI

YAMAHA ELECTONE

音の世界の豊かさ、美しさ、微妙さが手にとるようにわかります。音楽を表現し、創造する喜びが心の底から湧いてきます。しかもその調べはあくまでもエレクトーン独目のやわらかみと厚さをともないます。ヤマハエレクトーンはこのような完成された楽器です。世界中が魅せられたものも当然です。

京都市中京区三条寺町東入

十 字 屋 楽 器 店

シゲティの
ベートーヴェン

ヨーゼフ・シゲティ（ヴァイオリン）
アンター・ドラティ 指揮
ロンドン交響楽団

ヴァイオリン協奏曲



フィリップス
レコード

SFL-7768 30cm ステレオLP
豪華見開き式ジャケット入り ¥1,800

（予約ご注文分に限り17cmステレオLPによる）
（新譜案内（音のカタログ）を差し上げます。）

発売元 日本ビクター株式会社

立 石 電 機

ハイマート 混声合唱団

＝ 第三回定期演奏会 ＝

39年11月28日 PM 6.30

大 谷 ホ ー ル

ごあいさつ

本日、ここに第3回定期演奏会を開催できますことは、皆様方の変らぬ御支援によるものと団員一同深く感謝しております。

私達は日頃「ふるさと」、「ハイマート」という名のもとで、お互いに音楽を語り合い、楽しみ励んでまいりました。

過ぐる春や夏の合宿、京工織大男声合唱団との交歓発表会を通じての成果が、今宵皆様方を前にして十分発揮できることを祈って懸命に歌います。

今回は、私達の先輩千秋氏の新作品を発表する機会をも得まして、私達の一層の励みとなりました。いまだいたらぬ所もありますが、この機会に皆様方と共に、何かの共感を得られますれば、幸いと思っております。皆様方の忌憚なき批評を仰ぎ、今後の指標といたしたいと思います。

団 員 一 同

PROGRAM

I アメリカンソング集

1. Charlottown (南部地方民謡)
2. Black is the color of my true love's hair (アパラチア地方民謡)
3. Crawdad Song (ケンタッキー山岳部民謡)
4. Hi—LiLi, Hi—Lo (M. G. M. 映画 "LiLi" より)
5. The Erie Canal (ワァークソング) Solo 中 村 紘 一
6. Ev'ry Time I Feel the Spirit (黒人霊歌)

指揮 橋 弥 良 一
ピアノ 堀 尾 尚 志

II 催馬楽抄

千 秋 次 郎 作 曲

"混声合唱のための9つの組曲"

1. 梅 枝
2. 紀 伊 州
3. 眉 止 自 女
4. 此 殿 西
5. 我 門
6. 道 口
7. 田 中 井 戸
8. 老 鼠
9. 葛 城

指揮 林 哲 三
ピアノ伴奏 千 秋 次 郎
二重唱 sop 野 口 泰 子
alto 佃 延 子
テノール・ソロ 林 恒 徳

御宴会・御会合に……………鍋料理・成吉汗鍋・ヴィヤベーズ

ビヤホール

ミ ュ ン ヘ ン

河 原 町 四 条 電 ② 3 5 0 5 ・ 3 9 1 7

PROGRAM

— 休 憩 —

Ⅲ 「天地創造」より

F. J. HAYDN

1. Nun schwanden vor dem heiligen Strahle
2. Erstarrt entflieht der Hölle geister Schar
3. Mit staunen sieht das Wunderwerk
4. Die himmlischen Heerscharen
5. Stimmt an die Saiten ergreift die Leier
6. In vollem Clange
7. Die Himmel erzählen die Ehre Gottes
8. Gott sah jedes Ding
9. Vollendet ist das grosse Werk (der Schöpfer siehts)
10. Vollendet ist das grosse Werk (des Herren Lob)

指揮	沖 吉 和 祐
伴奏	川 隅 裕 子
solo	益 子 務
	野 口 泰 子
	長 安 敏 夫
	北 村 孝 雄
ナレーター	石 塚 満 郎

ヤマハピアノ・オルガン・エレクトーン

フローラピアノ（独乙部品使用）

マ ッ ヲ 楽 器 店

上京区河原町今出川西入ル TEL (23) 5544・5665

曲 目 解 説

—アメリカンソング集—

ハイマートとしては初めてのアメリカンソングで、ワンステージを構成してみました。それも余り聞く機会のない、いわばかくれたすばらしい歌を、いろいろな面から集め、アメリカンソング集というタイトルで、みなさんに聞いていただくわけです。曲目は次の通りです。

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. Challo town (シャーロットタウン) | 南部の民謡 |
| 2. Black is the color of my true love's hair | アパラチアン地方の民謡 |
| 3. Crawdad Song | ケンタッキー山岳部の民謡 |
| 4. Hi-Lili, Hi-Lo | M. G. M. 映画 "LiLi" より |
| 5. The Erie Canal | ワークソング |
| 6. Ev'ry time I feel the Spirit (常に神は心に) | 黒人霊歌 |

私達がこれらの歌にとりくんできて感じ取った事は、彼等の歌は、形だけで、つまり楽譜を読むだけでは死んでしまうという事です。勿論、この事はすべての曲にいえる事なのですが、アメリカの歌をとりあげた場合、特にこの点に留意しなければならないと思います。すばらしい合唱団は、技術の巧きは勿論ですが、常に表情が豊かです。それは身体で歌うからです。頭で歌っているのではないという事です。そういう点アメリカ人は、先天的にあるいはその生活環境から、感情の表現がすなおです。それを無視して、私達が彼等のまねをして顔をつくったところで、ジェスチャーをしたところで、それらは見苦しいものになる事は明らかです。しかし私達自身もっと感情をすなおに表現するという事は不可能ではありません。ステージでも、みなさんに聞かれるというはじらいもなく自然に歌えたら、又みなさんにも、メロディーを口ずさめるほどの雰囲気が生まれたなら、私達としては大成功だと思っています。そこには、ハイマートなりのアメリカンソングが生き生きと波うってくる事でしょう。なにはともあれ、すばらしい編曲でのアメリカンソングの数々を楽しんでいただけたらと思う次第です。御批評をお待ちしております。

プログラムにのせる解説としては形式はずれなものになってしまいましたが、私としては、練習にのぞむ態度をよく知っていただきたかったのです。この点、御了承をお願いします。

指揮者 橋 弥 良

= 伝統への指向 =

"催馬楽抄"の技術的側面

せんしう・じろう

1. ひところ歌謡曲界に民謡ブームとよばれた時期があったようです。"なつかしいお国自慢の数々"とか"そこに生きる人々と喜び悲しみをともにし、うたいつがれてきた海山のひびき"とかいったキャッチ・フレーズで、各地の民謡が、"地元総出演"からマンボとかブルースに小粋にアレンジされたものまでのいろんなスタイルで、ディスクにのって流行したものです。この事をボクらは、つまりそのような社会の中に生活する以上それに対し無関係ではありえないボクらは、どのように受け止めるべきでしょうか。

2. 視点を音楽の分野に限定しても、民謡や俗謡ばかりでなく、謡曲とか歌舞伎の下座音楽とか浪曲、あるいは明治以降のものでもすでに密着が過度に進んでいる"はにうの宿"とか"仰げば尊し"とかの一連の唱歌、これら日本の文化遺産に対しボクらは無関心ではおれず、当然ながらそれらを守り伝えるべき義務を持っているわけです。

曲目解説

しかし伝統を守るという事、それは必ずしも過去の事物をそのままの形で受け渡してゆくという事ではないはずです。ボクらの今日のありかたの踏み台になるというかわりかたのみ、ボクらの過去はその意義をになうものなのです。過去の文化そのものは、例えば広島原爆ドームと同じく、一種の残骸にはかなりません。あの無惨に崩れ落ちた建物が意義を持っているのは、そこにボクらが自分たちの今日のありかたとの抜き差しならぬかわりあいを、今なお見出しつづけているからです。

伝統を守るという行為は、現在の時点でなされるたゆまない“過去との対決”に他なりません。ある意味では、伝統を乗り越える事が、それを継承することだともいえるのです。したがってこのような考えかたからすると、さきに書いた民謡ブームの問題は、それがボクらの生活に密着したものである限り、編曲スタイルのいかんを問わず、肯定してよいことになるようです。しかしはたして、ボクらは手離してそれを肯定してよいのか。

3. それはともかくとして、“在る”ことと“在るべき”ことが混同されてはなりません。“生活に密着する”，その生活という言葉の実体をボクらは時として、あまりにも安易に理解しているのではないのでしょうか。伝統を乗り越えるという場合、ではどの方向へ乗り越えるかが、ほんとにはまず重要なのです。いうまでもなくそれは、ボクらの“在るべき”方向に向って、です。それでは、その“あるべき”方向とは何か——それをここで今述べるには、あまりにスペースが制限されています。不親切かも知れませんが、さきの民謡ブームの話とともに、このあとは各自の手にゆだねたいと思います。ただあえて補足するなら、一見ボクら個人の意志などまったく無力に思えてくる歴史の流れ、それに対しボクらはあくまでも各自の責任を問われつづけている、という事です。民謡ブームの問題も、力点を民謡に置くか、それともブームに置くかによって、さらに立ち入った考察の手がかりとなるのではないのでしょうか。

4. まだ充分には論旨が展開できず残念ですが、“催馬楽抄”の作曲に対する作者の姿勢、すなわちもっとも基本的な技術について、いくらかお話したつもりです。以下には、いわゆる作曲技法上の特長について——副題が示すように、この曲は日本旋法（おもに陽旋法）を使った9つの練習曲よりなる合唱組曲です。テキストとして取上げた催馬楽はいうまでもなく、奈良朝ころに形成された歌謡で、これについては指揮者の林氏が解説しております。完全5度を基礎音程（和声）とし、それらの積み重ねからくる音程の緊張度を利用して、和声づけを試みました。9つの各曲はそれぞれ次のような合唱技術の練習を目的としています。

第1曲——コラール・スタイル。

第2曲——オスティナート、部分的に6/8と3/4の重ね合せ。

第3曲——遠近法（ff→pp）、声部の受け渡し。

第4曲——四声カノン、遠近法（p→f→p）

第5曲——ソロを持つ合唱、その動的スタイルのもの。リズムの変化（2/4→3/4→6/8のくり返し）、転旋。

第6曲——ソロを持つ合唱、その抒情的スタイルのもの。和音の厚みを出す練習。

第7曲——いわゆる間奏曲風なものの表現。リズムとテンポの変化。

第8曲——音高の指示を与えない試み。効果音の練習。速度の変化。

第9曲——総合的練習。とくに対位法、転旋、速度の変化、ピアノとの協奏的な対置など。

第1～8曲までは無伴奏ですが、終曲ではピアノがカデンツァ風導入を経て、協奏的な役割りを演じます。全体の演奏時間は約30分、うち終曲が10分、したがって第8曲を支点として終曲と第1～7曲とが対置するような構成と考えることができます。

5. この曲は1964年3月から10月にかけて書かれました。その間ハイマートの後輩諸氏からは熱心な協力と貴重な助言を受けました。ここに謝意を表するしだいで。また、作曲者の実生活の面でひとかたならぬお世話になりました藤堂顕一郎氏（京都音楽家クラブ会長）に、心からの感謝と敬愛の念をこめて、このささやかな定着を献呈する者です。

曲目解説

催馬楽抄

1. 梅枝

梅が枝に來居る鶯や
春かけて はれ
春かけて鳴けども
いまだや雪は降りつつ
あはれ そこよしや
雪は降りつつ

梅の枝にきてとまっている鶯よ、おまえは春を待ち望んでないけれど、まだ雪が降りつついている。

(鶯に対する素朴な愛情の表現であろう)

2. 紀伊州

紀伊國の白良の濱に
眞白良の濱に
來て居る鷗 はれ
其の玉持て來

風しも吹いたれば
餘波しも立てれば
水底霧りて はれ
其の玉見えず

紀伊國の白良の濱に、飛んできて、遊ぶかもめよ、あの海の底に美しく光るものを持ってきておくれ、風が吹けば、そして、海面に白波が立てば、水底も霧にかくれて、その玉がみえなくなってしまう。

たゆとう波、かもめ、すみきった水、その美しさを十分に汲みとりたい、幼い子供の純粋な自然に対する願いと解そうか

3. 眉止自女

御馬草取り飼へ眉止自女
眉止自女 〱 〱
眉止自女や眉止自女 〱

【馬草を取って馬にやりなよ、眉止自女さん……】

“眉止自女”とは、本来の意味は、まだ眉をそり落としていない女ということ。この時代の宮廷に仕える女性はみな眉をそり落としていたところから、この女性は、身分の低い、労働に従事してあくせく毎日をすごしている女と受けとれる。

4. 比殿西

此の殿の西の
西の倉垣
春日すら あはれ
春日すら はれ
春日すら 行けど
行けども盡さず
西の倉垣や

このお屋敷の西にある倉の土垣のなんと長いことよ、春の日ざしでさえも、どんなにさしかかっても、行きつきそうにないほど、いってもいってもつきない。ほんに長い倉垣だよ、これは、

文字どおり、大きな屋敷の倉垣を外からながめたもの、ながめているのは、もちろん、倉の主ではない。おゝよそんな生活には縁遠い人達の素朴で、快活な気持だろう。

5. 我門

我が門に 〱
上裳の裾ぬれ
下裳の裾ぬれ
朝菜摘み 夕菜摘み
朝菜摘み

朝菜摘み 夕菜摘み
我が名を知らまくほしからば
御園生の 〱
御園生の 菖蒲の郡の
愛娘と言へ
大領の愛娘
弟娘とこそ言へ

私のうちの前で、上裳のすそをぬらし、下裳のすそをぬらしながら、朝菜、夕菜を摘んでいる、その私の名前が知りたけりや、御園生の菖蒲の郡の郡長の娘、大領の最愛の娘だと覚えておきなさい。

菜摘み女がとやかく言いかける男に、これでも郡司の娘でございと、威張って、うそをついているもの。
滑稽の中に、労働に従う、食しいものの気持がにじみでてる。

— 歌 詞 と 大 意 —

6. 道 口

道の口武生の國府に
我は在りと
親に申し賜べ
心合の風や
さきむだちや

〔道の口の武生の國府というところに、私が今いる
ことを、郷里の親に伝えておくれ、心合の風よ。〕

7. 田 中 井 戸

田中の井戸に
光れる田水葱
摘め ― 我子女
小我子女 たりらり
田中の小我子女

〔田中の井戸に美しく光っている田水葱を、摘みな
さい、幼い娘よ、〕

〔なんのかざりけもない、無心に田水葱摘みに従事
している、幼い女の子に対する限りない愛情の表
現だろう。〕

8. 老 鼠

西寺の老鼠 若鼠
御裳啄むづ 袈裟啄むづ
―― ―

法師に申さむ 師に申せ
法師に申さむ 師に申せ

〔西寺の鼠ども、御裳をかじった、袈裟をかじっ
た、和尚さんに言いつけてやろう、言いつけよ
う。〕

9. 葛 城

葛城の寺の前なるや
豊浦の寺の西なるや
榎葉井に白玉しづくや
真白玉しづくや
おしとんど ―

＜浅緑 濃い縹

染めかけたりとも見るまでに
玉光る 下光る
新京朱雀の垂り柳
または 田居となる
前裁 秋萩 なでしこ
唐葵 しだり柳＞

しかしては 国ぞ榮ゆるや
我家等ぞ 富みせむや
おしとんど ―

〔葛城の寺の前の、豊浦の寺の西の榎葉井の美しく
光る白玉しづくよ。〕

〔浅緑色、濃い縹色に染めかけたようにみえる
ほど、美しく光っているあの新京朱雀の垂り柳
か、それとも、あのお屋敷の前庭の前裁、秋
萩、なでしこ、唐葵、しだり柳のように〕
その美しく光る玉がみえる時には、私たちの国は
榮えるだろう。私達の家が富みするだろう。そし
て、私たちの暮しが楽になるだろう。〕

〔榎の葉井は、民衆の願いごとをかなえてくれる井
だろう。その水の中に、白玉が美しく光る時こ
そ、自分達の生活が楽になるのだという、卒直で
切々とした願いがこめられている。〕

曲 目 解 説

催馬楽抄に思うこと

指揮者 林 哲 三

この4月にはじめて、先輩の千秋次郎さんから、この“催馬楽抄”を紹介してもらった時は、日本の奈良時代という、我々にとってはかなり疎遠なものを、現代の音楽形式でとらえるということであつた面喰らったのですが、楽譜をながめ、ピアノで音を聞いている内にこの作品のもつものが、今までの自分達の日本民謡に対する観念を打ちやぶり、非常に広い意味のなにか日本的なものを含んでいることに気がきました。

明治以後のあらゆる点での西欧化の波の結果として、現在の我々の音楽に対する感覚も徹底的に西欧的なものとなり、その中に埋没してしまっている時に、時たま琴の調べを耳にすると、何か異様な郷愁を感じることは、たびたび経験することですが、この郷愁をただ単なる後向きの郷愁に終らさず、我々日本人の本当の音楽、日本人の生々しい生活の中からはきだされる音楽として、今一度再生産することができたらどんなに大きな意味のあることかと思ひます。

ところでこの催馬楽抄の中から、琴・尺八や能楽・神楽、さらには祇園祭りの囃子、あるいは万才やどこか小さな村祭りの囃子まで非常に広い範囲の中に共通するなにものかのひびきを感じられるのです。（今日の演奏ではこれがどこまで表現できるか心配ですが）これらのものが我々の新しいこれからの日本民謡の発展として再生産されるのを感じるのです。

日本民謡といへば“ソーラン節”“五木の子守歌”“木曾節”など、しかもそれが西欧風の形式でアレンジされたものしか思ひつかばない我々が、本当に日本の民衆の生活から生まれた民謡の中にある思想を正しく現代に発展させているかどうかは、はなはだ疑問です。

それでいて、いわゆる日本旋法の中の音を何気なくつないでメロディーを作ると、とたんにハッ何かを感じるという事実は非常に興味のあることです。

さてテキストの催馬楽は、そもそもは馬子歌で、奈良時代の律令体制の行詰りの頃を中心とした時代の歌謡です。もちろんそのほとんどが作者不詳ですが、貴族の支配下にあつた民衆の生き生きした形象をそなえているのを感じます。平安朝・九世紀前半になつて、貴族社会に遊樂的な酒宴が盛んになり、この酒宴でうたわれる歌謡として貴族達がこれらの民謡を摂取して宮廷社会に歌ひ広めたもので、このために現在にまでそれが文字となつて残っているわけです。

この催馬楽の中にも、現実の生活の苦悩を直接はきだしたもの、諷刺や滑稽、又人間や花や動物の美しいものに対する愛情の直接的な表現など、いわゆる民衆文芸の多くの特徴を同時に含んでいます。今日の9つの曲もこれらの性格をそれぞれもっています。

平安時代以後の歴史、特に文芸史の中ではもっぱら貴族社会に限られ、歴史の中の日本の民衆の本当の姿を我々はなかなか知り得ないのですが、催馬楽も又、いったん貴族に吸収されると、支配階級の当然の性格からして、この催馬楽のもつ生命力が正しく受けつがれることなく、いつのまにかただ単なる文学史上の一事実としてしか知られなくなつてしまつたようです。

中 華 料 理

……………本場の味でおなじみの……………

東

園

東一条通り西入ル

㊦ 4908

曲 目 解 説

ここで我々が「催馬楽抄」をとり上げるのは、日本の民衆のもっていた生々しい生活感情を、いつのまにか見失なわれ、不純物にまみれたものを再び現代の我々の立場の中でとらえ直し、西欧化・アメリカ化された中に埋没している中に、本当の日本的なもの、我々独自のものを再生産しようとするところに意味があるのだらうと思います。

この作品の初演である今日の演奏ではたして、表現したいもののすべてを表現出来るかどうか非常に心配なのですが、9つの曲のそれぞれに与えられた合唱技術上の特徴を十分に生かすと共に、全体としてこの曲のもつ思想を打ちだすべく最大限の努力を重ねたつもりです。

この曲の初めての演奏を我々ハイマートにゆだねられた千秋次郎さんに心から感謝の意を表します。

ハイドンと「天地創造」

指揮者 沖 吉 和 祐

オラトリオ「天地創造」と「四季」とは交響曲、室内楽のハイドンを「宗教音楽のハイドン」としてあまりに有名にした二大名曲です。

フランツ・ヨーゼフ・ハイドンは1732年3月31日、オーストリアのローラクという片田舎に生まれました。「びっくり交響曲」「おもちゃ交響曲」といえば、御存知の方も多いことでしょう。ハイドンは、これらの交響曲をはじめ152もの交響曲をつくり、後世における交響曲の形式や楽器編成の基礎を築き「交響曲の父」と云われています。

「天地創造」はハイドンが66才の時かいた曲で、旧約聖書の創世記の語る所をオラトリオにしたものです。最初にオラトリオにしようと試みたのはイギリスの詩人リドレイです。彼はミルトンの「失樂園」に基き、ヘンデルの為に台本を書きましたが、遂にはたされませんでした。後、ハイドンの友人で、好楽貴族達の社交界の秘書をしていたシュバーテンにより独訳され、今日みられるものが出来あがりました。

初演は1798年4月29日、ウィーンのシェンベルク邸における私的な演奏会で、ハイドン自身の指揮で行われました。翌99年作者の命名日である3月19日ブルフ劇場で公開演奏が行われ大好評を博しました。ハイドンは「この曲を作っている時ほど自分は幸福を感じ、敬虔な気持ちにいたったことはない」と云っています。

「天地創造」は、その半世紀前の作曲家ヘンデルの影響も見られますが、全体が器乐的であることはハイドンの特徴といえましょう。3部よりなり、第1部は創造の最初の4日、第2部は創造完成の6日まで、第3部は楽園のアダムとイヴを扱っています。

本日は第1部、第2部から10曲をとりあげてみました。ソプラノ、テノール、バスのソロのメロディーの美しさ、コーラスの、ある時はフーガ形式になり、ある時はリード形式になる器乐的な動きを充分楽しんでいただければ幸いです。

百万遍角西北

双 葉 食 堂

味とサービスを誇る皆様の食堂へ……………

曲目解説

1. AIR

きよけき御光にとこやみの夜はあけぬ
やみの夜はあけて初めて日は照りいでたり
乱れし^{あめつち}天地は定まりて
清けく正しき神のすがた成りいでたり

2. AIR・CHORUS

よみの霊おじまどい
深きとこやみのほろびの淵へと
あれくるいて深きやみの淵へとおちゆく
天地^{あめつち}いず^{あめつち}天地いず 主の御手に成れり

3. Solo and CHORUS

たえに御業はくすしや
天つ御使らの御歌は高らにひびきて
御神をことほぐ 二日目いつ

4. Recitative

天つ使いらは三日目を語りつげつつ
御神をほめうたう

5. CHORUS

琴もて歌もてよろこぶうたいで
みちからの主をほめよ
天地^{あめつち}神の御手に
うるわしのよそおいは成れり

6. Recitative

輝く陽の光はのぼりて
幸あるはなむこの如く競い走れる
ますらおに似たり
静が夜ほそけき光はひそかに月に宿る
はてなき空には数知れぬ星きらめく
天つ使いらは歌もて御業をほめたたえて
四日目をつげつつうたえり

7. CHORUS. TRIO

天つ使いらは神の御栄光と
みての業を語りしめす
この日かの日のことばを
この夜かの夜に知識をおくれり
ことばは あまねく
伝えいわず きかざるに 地のはてにも及ぶ
天つ使いらは神の御栄光と
みての業を語りしめす

8. Recitative

神のつくれるすべてのものをみたまい
豊き天つ御歌はひびきて
六日目の業はまたけく成れり

9. CHORUS

またけき御業を御神はみたまい
よろこびたまえり
よろこびさげびてうたわん
歌もて御神をほめたたえまつらん

10. CHORUS

たえなる御業を歌もてたたえん
御神をたたえん
とうとき皆にぞ 御栄えとわにあれ
アレルヤ アレルヤ
とわにいと高き御栄えあれ
アレルヤ アレルヤ

各国産珈琲・サンドウィッチ

アルペン珈琲店

open. A.M. 7.00

百万遍電停東 TEL 782602

メンバー表

(Sop)

浅原 岑子 (ⅡΦ₂)
常松 範子 (ⅡΦ₁)
野口 泰子 (ⅡΦ₁)
坂本 正子 (ⅡS₁)
村田 幸子 (ⅡL₄)
和田 啓子 (ⅡL₃)
川辺 道子 (ⅠL₂)
杉本 知子 (ⅠL₁)

(Alt)

鈴岡 宏子 (ⅢΦ)
宮後 紘子 (ⅢΦ)
佃 延子 (ⅡΦ₂)
道浦 礼子 (ⅡΦ₁)
川隅 睦美 (ⅠL₃)
大門 祥子 (ⅠJ₂)

菅岡 節子 (ⅠS₃)
柴田 美智子 (ⅠΦ₁)
吉村 陽子 (ⅠΦ₁)

(Ten)

林 恒徳 (ⅣL)
林 哲三 (ⅢS)
沖吉 和祐 (ⅢP)
大塚 岩男 (ⅢT)
野口 直樹 (ⅢT)
林 弘二 (ⅢT)
中島 暉 (ⅡS₁)
北村 孝雄 (ⅡT₅)
西村 喜之 (ⅡT₇)
山口 正隆 (ⅡT₁)
吉瀬 康之 (ⅡT₄)
中川 端 (ⅡA₁)

佐藤 茂樹 (ⅡJ₅)
中西 孝 (ⅡJ)
橋 弥良一 (ⅡJ₅)
深尾 和夫 (ⅡT₁₁)
松原 徹雄 (ⅠT₁₀)
饗場 弘二 (ⅠΦ₁)
砂田 良一 (ⅠL₄)
井上 徹 (ⅠT₃)
福井 正美 (ⅠT₆)

(Bass)

長安 敏夫 (ⅣT)
辻 和郎 (ⅢS)
北脇 重宗 (ⅢT)
中村 紘一 (ⅡS₁)
彦坂 正道 (ⅡS₁)
太田 光雄 (ⅡT₄)

大平 公雄 (ⅡT₁₄)
高橋 泰雄 (ⅡT₅)
池原 義弘 (ⅡL₃)
平井 士郎 (ⅡJ₂)
井沢 宏充 (ⅡE₂)
角 建二 (ⅡE₃)
田辺 樹 (ⅡE₁)
山上 修 (ⅠL₃)
日野 利昭 (ⅠS₂)
吉田 真 (ⅠS₅)
伊沢 朗 (ⅠT₃)
大東 俊英 (ⅠT₉)
岡里 晃 (ⅠT₃)
河合 利彦 (ⅠA₃)
村上 昌弘 (ⅠΦ)
井原 功勝 (ⅠA₃)

ナ カ ニ シ ヤ

京大正門前 TEL ㉗ 2265
㉗ 3509

清 州 旅 館

河原町今出川

明るい店内

廉価美味、栄養満点

ぜひ一度試食を！

鈴 蘭 食 堂

東一条電停西入ル南側

珈 琲

午前 8.30 ~ 午後 11.00

早朝サービス

ホ ビ ー

(コーヒー・トースト ¥90)
(ミルク・トースト ¥80)

(第1・第3金曜日定休)

銀閣寺電停上ル三丁目

TEL (79) 2515

冷暖房完備

健全娯楽

Am. 10.00 ~ Pm. 11.00

西 洛 マ ー ジ ャ ン ク ラ ブ

市電銀閣寺電停上ル三丁目西側

TEL (78) 9563

叡山ドライブ帰りのいこいの場

御家族づれでぜひ一度……

レ ス ト ラ ン 西 洛

市電銀閣寺電停上ル三丁目西側

TEL (78) 9563



名曲コンサート
 毎日午後3時・7時の2回開催致します
 モーニングサービス P.M.5:00迄
 営業時間 A.M.8:30より
 名曲珈琲 **子七鬼**
 河原町蛸薬師(丸善南側东入) 22-5765

パンと洋菓子
 L.P 音楽喫茶

柳 月 堂

出町柳駅前
 ㊤5161~4

洋酒喫茶

柳 月

木屋町三条上ル
 ㊤0660

気軽に軽食を喰べながら お飲みいただける
 ビュッフェ・コーナーが 地階に誕生しました!!

3階・純喫茶

1階・サロン風グリル

2階・純喫茶

地階・ビュッフェコーナー

凱旋門

京・スカラ座前東入ル・TEL 22/2455・0855



京都・四条

大丸

電・大代表②8111